資料１

第６回 本町田ひなた小学校 新たな学校づくり基本計画推進協議会
議事要旨

開催日時		2024年5月１７日（金）　９：３０～１１：４８
開催場所		町田第三小学校　３階会議室（ウェブ会議併用）
出席者（敬称略）	委員	渡辺（和）委員、渡邉（康）委員、熊澤委員、高柳委員、平本（江）委員、安藤委員、渡辺（一）委員、手塚委員、野口委員、越水委員、湯目委員、小原委員、北澤委員、平本（純）委員、本城委員、若月委員、大波多委員、◎清水委員、西山委員、〇杉本委員、大谷委員 （◎：会長、〇：副会長）
	事務局	教育総務課、新たな学校づくり推進課、施設課、学務課、保健給食課、指導課、教育センター、防災課 玉川大学教育学部
傍聴者		０名

議事内容（敬称略）

はじめに　【学校教育部長挨拶】

学校教育部長　　本日はお忙しい中、新たな学校づくり基本計画推進協議会にご出席いただき、感謝申し上げる。

この本町田地区においては、２０２１年１２月以降、保護者の方や学校運営協力者の方、地域の方、教職員の代表の方々と一緒に新たな学校づくりに関する様々な課題につきまして具体的な検討を行ってきた。

今年度、いよいよ本町田東小学校と本町田小学校の統合を控えており、通学路の安全対策や本町田小学校の内部工事といった多くの取組が進んでいく。

また、校歌・校章の作業も進んでおり、それが完成すると、ほかにもあらゆる場面で児童交流が行われるなど、仮校舎での本町田ひなた小学校の開校に向けて準備が進んでいく。

この新たな学校づくりというのは、単に建物の新築計画ではなく、地域の拠点としての学校をつくるという取組である。この取組を進めていくにあたっては、各組織や団体を代表して集まっていただいている皆様と未来の子どもたちのために様々な議論を重ね、教育委員会や学校のみならず、皆様でこの取組を推進していきたいと考えている。

また、委員の皆様には２８年度における町田第三小学校の合流、そういった視点からも引き続きいろいろなご意見をいただきながら、３校での本町田ひなた小学校の開校を実現したいと思っている。

冒頭に申し上げたとおり、いよいよ統合前年度となった。本町田地区は、この町田市全体の新たな学校づくりの先駆けとなっている。

町田の未来の子どもたちのよりよい教育のため、まずは来年度の統合に向けて、これまで以上にスピード感を持って取り組んでまいるので、皆様のご協力を重ねてお

願い申し上げる。

１　新たな学校づくり基本計画推進協議会について（委員委嘱・自己紹介・会長副会長選任等）
新たな学校推進課　（資料１―１説明）

なお、本協議会について、昨年度は名称を「本町田地区小学校新たな学校づくり基本計画推進協議会」としていたが、２０２４年３月の第１回市議会定例会にて学校名が「町田市立本町田ひなた小学校」に決定した。

このため、今回第６回推進協議会以降は、「本町田ひなた小学校新たな学校づくり基本計画推進協議会」と名称を変更する。

（資料１－２ 説明）
（各委員自己紹介）
（会長・副会長選任）

２　第５回推進協議会の振り返りについて
新たな学校推進課　（資料２ 説明）

３　報告事項
（１）本町田ひなた小学校 新たな学校づくりに関する取組内容について
新たな学校推進課　（資料３－１ 説明）

（２）本町田ひなた小学校の校歌の制作状況について
新たな学校推進課　（資料３－２ 前半部　説明）
山田准教授　（資料３－３ 説明）

今回、皆様からいただいたご意見、子どもたちへのアンケート、そして、子どもたち、特に１年生に書いてもらった本町田ひなた小学校のイメージの絵を基に作詞を行った。まず作詞について説明し、その後、作曲について朝日より説明をする。

校歌は大きく３番まで、そして最後に、「本町田ひなた小学校」をいれたアウトロをつけた構成としている。

コンセプトについて。緑の枠の中に赤字で書いてある字がある。この赤で書いた字は、これまでの３校で歌われてきた校歌の言葉に値するところとなる。

コンセプトの１について。本町田東小学校、本町田小学校、町田第三小学校、この３つの小学校で使われている言葉を取り入れている。

そして、コンセプトの２、中学年の子どもたちが内容の大体を理解できる平易な言葉を使用し、国語科の詩の教材としても使えるように、反復や比喩、そして小学校の国語科の教科書に載っているくらいの表現の校歌を使ってつくっている。

また、コンセプトの３について。学校名が長いため、正式名称は最後のアウトロ

のみに入れている。そうすることで入学直後の１年生も、日本語を母語としない児童でも、または、配慮を要する児童でも歌い始めに自信がない、最初何だったかなと思うことがないように、まずは「ひなたの丘」という言葉をメロディーに乗せて言えるようにとの願いを込めた。

コンセプトの４について。１番から３番まで、１行目と６行目の２行で各番の世界観を表せるようにしている。例えば１番、自然や人々との共生というテーマが見えてくる。２番は、探究・協働の学び、３番は、未来社会の創造というストーリーを描き、校歌の詩をつくった。

コンセプトの５について。１から３番まで、「わたし」という主体を意識する言葉を入れている。「ぼく」、「ぼくら」のほうがキャッチーで親しみがあるが、ジェンダーフリーで性差を意識しないということで、「わたし」という言葉を使用した。

そしてコンセプトの６について。あえて使用しなかった言葉が「元気」と「なかよし」。いろいろな心身の状態の子どもがいることを鑑みて、１から３番の歌詞全体を通して粘り強さと志を持って生き抜く人間像を描いている。ただ、「元気」という言葉は外している。また、「なかよし」という言葉も、学校に行きづらい子ども、多様な価値観をなかよしに求める時代でもあり、私としても、なかよしであろうとなかろうと必要なときに手を取り合えるという関係はこれから重要であると考え、「ともに」という言葉を１から３番の中に全て入れている。

こちらの歌詞をゼミ生に歌とともに、歌詞は伏せて聞かせた。１５名に聞かせ、どの言葉が印象に残ったかということを聞いた。すると、「ひなたの丘」、それと「ともに」、そして最後の「本町田ひなた小学校」が心に残ったと言っていたので、繰り返される言葉というのは非常に印象深いものではないかと思う。

朝日教授　（資料３－３ 説明）

山田先生が平易な言葉を使ってというような説明だったが、まず私がこの詩を手にしたときに第１印象は、非常に格調が高いなという印象だった。

私の校歌のイメージというのは、明るく楽しく元気よくみたいな、そういう言葉が出てくるかなと思ったら、非常に風格がある、そしてまた、スケール感が広い、大きい、世界を見据えている、そういうイメージを持ったので、この格調の高さ、この風格をそのまま音楽にしたいと思った。

ただ、１番、２番、３番と言葉が当然変わるので、言葉が変わるとイントネーションも変わる、または、語呂も変わってくる。これを何とか１つのメロディー、子どもの歌いやすさを考えると、２番でメロディーが、ちょっとリズムが変わるとか、３番で旋律が少し変わるとかというのは非常に歌いづらくなって、間違いやすくなってしまう。

そのため、これを全部統一した形でなるべく子どもが歌いやすく、ただ、もともとの原詩を変えずにという思いで、このメロディーになった。

町田市の今現存している昔からの校歌というのは大体ヨナ抜き調、唱歌風。大体

ピョンコ節といって、タッタタッタタッタと弾むようなリズム、これが結構特徴的。

なので、未来永劫という言葉を、さっき清水先生が言っていたが、ここから先のことを未来の子どもたちに広く浸透しながら、ずっと長く愛される校歌ということで、「Believe」や「旅立ちの日に」みたいな合唱曲というイメージでつくった。

この曲をつくるにあたり、結構今新しい校歌というのは日本全国で生まれており、いろんな校歌をYouTubeで聞いてみた。割としっとりした校歌が非常に増えてきているなという印象を受けた。

ただ、小学校の児童が歌う歌であまりしっとりし過ぎるのもというところがちょっと私も引っかかっていて、そこのバランスを取るというのを心がけた。

なので、合唱曲でスケール感の広さ、そして格調の高さ。ただし、子どもらしさ、あまりしっとりし過ぎずに子どもの元気な様子を毎日歌える、そういう校歌を考えてつくった。

それから、先ほど申し上げたとおり、歌いやすさということも非常に気を遣ったところで、楽譜をご覧いただきたい。

例えば、前のフレーズから、フレーズの終わりの音から次のフレーズが始まる、ここが跳躍してしまうと子どもたちは非常に歌いづらくなってしまう。なので、前のフレーズが終わった音から次のフレーズが始まる。

なるべく前の音から同じ音、もしくは順次進行で隣の音に行く、あまり跳躍が目立たない歌いやすさということを追求した。

それから、私は今日偶然、三小のお子さんたちの校歌を聞いたが、そこでもそうだったが、Ｄドアでレの音、２点二という音で、この最高音がレの音だった。

これは私が小学生を教えているときの経験からだが、子どもたちが一番伸びやかに、元気に、しかもみんなが一番出せる音域の限界がレだと思っている。このレの音を最高音に持ってくるということで、サビの部分、それから、アウトロの一番最後、「ほんまちだひなたしょうがっこう」の「が」の音、それでも、低学年のお子さんとか、ちょっと高い声が出ないというお子さんもいるので２部合唱を途中のサビからはするようにした。この２部合唱のメロディーではないほうの対旋律というのはすごく歌いづらかったりもするが、なるべく歌いやすく、前の音とまたつながりがあって、メロディーを侵食せず、しかもきれいなハーモニーになるようにということをなるべく心がけて配慮した。

そしてもう一つは伴奏について。伴奏はゴージャスにしようと思えば幾らでもできるが、本当に平易な、簡単な伴奏だけれども、単調にならずに歌を引き立てられるような伴奏ということで、なるべく簡易な伴奏ということも意識してつくった。

実際に聞いてみていただきたい。

〔　本町田ひなた小学校校歌（案）を流す。〕

朝日教授　　練習したのは20分弱。つまり、何が言いたいかというと、歌いやすいのではないかと。私のゼミは音楽が得意な子たちの集まりだが、丁寧に教えれば子どもたちでも多分十分に歌えると思う。

委員　　とてもすばらしく、３校のよいところを入れ、そして温かみのある未来に向かっての作詞、とてもすばらしくでき上がったと思う。

気になるところが、「滝の沢」。本町田というのは昔から七講中といい、今井、後田、東、原、向、下、そして宿と七講中で本町田が出来上がっている。滝の沢というのは、その後に生まれた地区名。なので、本町田の中心である「井出の沢」という地区名と「滝の沢」を入れ替えたらどうか。

山田准教授　　井出の沢を見に行ったが、水がなかったので、今回、「滝の沢」を入れさせてもらった。「井出の沢」でも「滝の沢」でも音韻的には全然問題はない。どちらでも問題ないので、やはりここは最後まで検討していたところなので、もう一度、検討させてもらう。水があるところと思い、今回、「滝の沢」で出させてもらった。

委員　　昔は水があふれていた。ちょっと今、枯れてしまっているが。

山田准教授　　石碑は写真に撮ってきたので、検討する。

委員　　恩田川というのは、昔で言うと、今井川とわさび沢川が合流したのが恩田川。恩田川の地名は、もっと下流から発祥していたと思う。

あえてここに恩田川というのは、今井川とわさび沢川を合流している地点を一緒にしてしまおうという考えで、多分、恩田川という、後から名がついていると思う。

なので、先ほど「滝の沢」のところを「井出の沢」という話だが、実は滝の沢源流公園は、もともと昔、井出の沢の古戦場跡ということで、この地域は、戦いがあった場所という意味では、滝の沢はその当時、やはり水が豊富だった。自分も過去の歴史から調べるとそういうイメージがあるということでは、確かに委員が言われたように「井出の沢」と入れるよりも、大きな地域を捉えると滝の沢源流、要するに、滝の沢、地域の境界も滝の沢はこの地域に入っており、なおかつ薬師池は地下水、流れる水としては、イメージとしては野津田方面に流れていく。

我々はそこで過去に小さい頃、遊んでいたが、今井川は、七国山のほうから流れてくる水と、西園、あの辺の山から流れているところが合流して形成された。

色々と調べていただいたうえで、滝の沢を入れたのだと思うが、歌いやすく、すばらしいと思う。

山田准教授　　かなり調べてつくった。地図もかなり拝見し、現地にも行ってみた。やはり子どもたちが遊べるところというイメージもあり、今回は「滝の沢」を採用させてもらった。またこの地名のことについては検討したい。

新たな学校推進課　（資料３－２ 後半部　説明）

（３）2024年度実施予定の通学路安全対策の内容について

学務課　　（資料３－４ 説明）

委員　（参考資料「通学の安全対策について」２ページ目の❶から❹にかけての黒点線の部分に対しての質問）この間のどこを使って、例えば、消防団の詰所がある。そこは、実は反対側は歩道がないイメージ。そこの対策はどうするのかというのと、❶のところから、桜美林大学の横からずっと下まで児童は下って行くが、一部歩道がないところについて、その対策と、通学路としての使用の有無と今後どうするかという説明をお願いしたい。

学務課　こちらの破線の部分については利用する予定で今のところは検討している。

歩道がない部分が一部区間あるとのことだが、実際に今井谷戸の付近の子が通ることもあるのではということで設定している。特に対策を改めて検討しているという場所では、今のところはない。

委員　対策を検討するまでは至っていないが、対策を検討するということでいいか。イメージとしては、❶の先の青実線のところは既存で使っているので、先ほどの黒点線のところは、先ほど言ったように、歩道がない部分が少しあるので、通学路として使うのであれば対策を検討してほしいと思う。

❶の先の既存の青実線の通学路と今回の黒実線の通学路、どっちを通ってもそんなに変わらないが、黒実線の通学路を使用したほうが早いんじゃないかなというイメージがある。

学務課　これまでの検討会の中でこの道路についてのご意見はなかったため、現況を確認し、児童の分布なども含めて、改めてどちらを通るのがいいのかを検討していく。ご指摘のとおり、❶のところを通ったほうがよいのではないかというご意見もあるかと思う。改めて確認する。

（４）工事期間中の避難施設について

防災課　（資料３－５ 説明）

委員　旧避難者推計から新避難者数推計に当たって人数が減っているが、理由は。

防災課　幾つか理由があり、複合的な理由で増減している。主なところとして、想定する地震が変わったというのが１つ大きくある。

今までは多摩直下地震というのを想定していたが、新避難者推計では、東京都が出した多摩東部直下地震を想定、東部がついた。

どういうことかというと、多摩東部の地震の起こる確率のほうが高いという考えで、震源地、被害が起こるエリアが若干東寄りに変わった。

そのために被害の大きいところが東側に移ったことで、今の被害の人数が、移動した分、少なくなったところがある。

それから、皆様の取組により、住宅の耐震化や、不燃化の取組がこの１０年で進んだこと、それから、各家庭での家具の転倒防止、日常の備蓄といった、自助の取組が進んだ。それから、消火器等の初期消火対策、の準備が進んだ、こういったことが数の減少につながったと考えられる。

委員　　地域によっては分散で東小や三小に行ったり、藤の台小学校で避難をしてくださいという分散という形で当初言われたが、こうやってひなた村に避難できるというのは、地域としては非常に近いところなのでよかった。

それと、例えば、三小や本小については、これからなくなる学校なので、そこの部分の地域の避難所の確保というのはもっと進めてほしいと思う。

新たな学校づくりで本町田ひなた小学校が新たな避難所になると思うが、そこにこの地域がすべて集まるということは、不可能とは言わないが、可能ではないという部分では、もっと避難所を、例えば、三小や本小の空いたところをうまく利用してほしい。

色々な経過があると思うが、もっと突っ込んだ話をしてほしい。

東小だけじゃなく、この地域一帯にとっては、３校が同時に統合されるという意味では非常に大事なことだなと思うので、よろしくお願いしたい。

防災課　　今後については、様々な場でご意見を頂戴しながら、今お話のあったほかの小学校の部分の避難先についても検討を重ねていき、速やかに地域の皆様にお返ししたいと思う。

（５）2024年度における学校の取組について

清水会長　　（資料３－６　説明）

項番１番「本町田ひなた小学校の教育活動について」。今、行事でもすごく私が助かっているのは、運動会や修学旅行の時期が３校大体同じこと。つまり、３校が一緒になっても子どもにとって、一気に行事が変わるということがなく、助かっている。

また、生活指導についても、今、生活指導主任のほうで学校の決まり等をいろいろまず詰めて、あまり変わらない、でも、いいものはどんどん取り入れていこうという形でやっている。

次に、項番の２「本町田ひなた小学校保護者説明会の実施について」。

詳細は、学校だより等を通じて対象となる在校生の保護者へのお知らせをしていく。もちろん、載っている日時だけでなくその都度、通りかかったとき、地域の方も学校に寄られた時にはぜひ校長室に寄って、ざっくばらんに話を聞かせていただけると大変ありがたいと思う。

項番の３「児童の交流について」。連合運動会が、町田三小と本町田東小と本町田小で本校に集まって３校の６年生が合同で運動会をやる。ぜひそれぞれの６年生が各校の伝統を寄せ合って熱く競技してほしい。それを見た感想をぜひ学校に帰って５年生以下の子どもたちに、正々堂々とちゃんと競ってきたよ、とてもどこの学校の６年もすごいな。あんな６年生が手本となった子どもたちって、必ずすてきな子どもたちだよねというのを広めていける機会になったらなと思っている。

また、２０２８年度の本町田ひなた小学校と町田第三小学校の統合に向け、２０２６年度及び２０２７年度にも２校の合同遠足等の交流を予定している。だからこ

そ、今までやってきた交流が必ず子どもたちの役に立ち、町三小の子どもたちには、さらに今、本小と東小の子が抱えている不安よりももっと少なくできるように。そこを私たち大人が努力していくところだと思う。

最後に、項番の４「閉校式典について」。内容については今後検討を進めているところ。ただ、杉本校長も含めて私が思っているのは、存分に今の学校に名残を惜しんでほしいと思う。これ以上ないという学校の思い出。あの仲間とだからこの思い出ができた。自分だけその時代に戻ったとしても、あの仲間とじゃないとできないよねというぐらい存分に閉校式典に向けて子どもたちは名残を惜しんでほしい。終わった途端に、このすてきな学校を本小の子どもとつくるぞというようなことを１年から５年が心に秘めて新たな第１歩を踏み出す、そういう１年から５年にとっての門出の式典であってほしいなと私は思っている。

委員　　２番の保護者説明会の実施について、どのくらいニーズがあるか分からないが、ぜひリアルとオンラインとハイブリッドで検討していただけるとすごくありがたい。

もちろん前のめりな方は仕事の調整とかをして参加すると思うが、どうしても仕事の調整がつかないけれども、話が聞きたかったという保護者層も多分一定数いると思うので、オンラインだったら職場からでも参加できる、より広く情報が伝わったほうが新しい学校にとってもいいかなと思う。ぜひハイブリッドを検討してほしい。

あと、３番の児童の交流について。今、娘が５年生で新しい学校の６年生になる。今年、長男が６年生にいるのを見ていて思ったが、やっぱり６年生は自分の学校のことを知り尽くしていて、１年生を迎えるのをすごく楽しみにしている。自分が高学年として新しく入ってきた子たちを案内できるところをすごく楽しみにしているというのを感じたときに、６年生で新しい学校に入って、自分が学校についての勝手も分からないという状況で下級生のお世話をするというのはすごく大変なことかなと思う。ぜひ今年度中に自分が過ごす新しい学校で過ごす日なり、過ごす期間をちょっと取っていただけたらうれしいと思う。

外で交流する機会はたくさんつくっていただいているなと感じているが、やっぱり校舎で過ごしてみるとか、校舎で新しい友達と一緒に授業を受けてみるとかという体験を、もし今年中からできたら、新しい学校に行ったときにスムーズに最高学年として、もしくは高学年として動けるんじゃないかなというふうに思う。

清水会長　　ありがとうございます。まず、保護者説明会のハイブリッドについては教育委員会と連絡を取り合って、なるべく実現できる方向で話し合っていきたいと思う。

あと、本町田小に行って６年生が、簡単に言えば学校探検、１、２年生が生活科でやるあれじゃないが、勝手知ったるというのはやっぱり必要かもしれない。その辺は杉本校長先生、また、うちの副校長の西山と大谷副校長先生と連絡を取り合って何とかその夢をかなえていきたいと思う。

委員　　今の５年生が最終的にどういう結果に落ちつくか分からないが、昨年度２月中の

保護者間のどこに行くという話の中では、やっぱり５年生が30人ぐらいいる中で、多分８割ぐらいが藤の台小学校を選ぶという結果というか、意思を表示していて、実際、この本町田ひなた小に来る子はかなり少数なんじゃないかという、今の５年生に関してはそういう印象だった。

なので、ひなた小に来る子に対してはすごく対策ができると思うが、藤の台小に行く子に対しても多分同じことが考えられる。すごく大変だと思うが、やっぱり行き先を見ながら、ほかの近隣校でも同じようにできるとすごくありがたい。多分、藤の台小と七国と、ひなた小が本当に少数という感じで、少なくとも５年生は分かれちゃうので、そこが切ないところでもあり、６年生としてやれることを全力でやらせたいというところ。よろしくお願いしたい。

清水会長　すみません、議長なんですけれども、東小の校長として。

友達が行く学校、友達が１人でも多いほうがいい。私は、このような保護者の判断は、それはそれで一理あると思う。ただ、自分のお子さん、我が子を育てるのは本当に友達だけなんですかと。先ほど山田准教授も言っていたが、私も引っ越した経験がある。引っ越したときは、たった１人でいく。じゃ、それでその子の人生は大きく変わったか。その子を育てるのは、その学校の教職員であり、そして、その地域にいる、今ここに集まっている地域の方々であり、そして、我が子の選択を間違いじゃなかった。今の人生を支える糧になるよと励ます保護者の温かい言葉だと思う。

そんな我が子の貴重な人生を、友達だけの人選で親が本当に決めちゃっていいのか。通学路の遠さとか、いろんな物理的なことはあるかもしれないけれども、だからこそ、さっき冗談だけれども、私がなった暁にはどんな学校になるか、東小を見に来てほしい。若月校長になったらどうか、三小を見に行ってほしい。教員としては、その学校をつくるのは友達ももちろんあるけれども、友達だけじゃない、ということ。それをぜひ、私は今後、東小の５年生の保護者の方々には機会あるごとに伝えていきたいと思う。

今度の学校公開のときも１時間目、私の講話にしたのはそのため。揺れる親心は理解できる。ただ、私は、学務課にはもうこう言っている。でも、やっぱりひなた小に行きたいという親が今後夏休みに出たらどうするか。個別対応でちゃんと寄り添って聞く。だから、先ほどの委員の方、大丈夫、諦めないでほしい。迷っている人がいて当然。だけれども、その友達を呼び込む、ひなた小に一緒に行こうよという子どもがいていいと思う。

統合のことについて今やっているから本小のほうには行けるけれども、藤の台、七国というのは統合とはちょっと離れているので、何か特別な対策をということは今ここではお約束ができない。だけれども、確実に言えることは、ひなた小に一緒に行こうよという子については本小の探検はできるということは保証したいなと思う。

決して意見を切っているわけじゃなくて、ひなた小は絶対すてきな子どもがいる

よと背中を押してあげてほしい。

委員　今年からの参加で話が追いついていないのかもしれないが、来年度、本町田ひなた小学校になって、学校の先生たちの配置といった話はもう決まっているか。

清水会長　人事は町田市教育委員会と東京都教育委員会になる。私たちは東京都の職員でもあるので。ただ、簡単にざっくり言えば半々だと思っておいていいかもしれない。

委員　ということは、現在の東小の先生方の半数近くがひなた小に子どもたちと一緒に異動されるという認識で。

清水会長　ざっくりそう考えておいていただければ。ただ、ぴったり半数とか、なかなかそれは分からない。大体半々と考えておいていいと思う。

委員　承知した。少し安心した。

委員　５月２０日に学区外通学制度の締切で、その後、清水先生のお話会があったり、もう締め切った後でそういうお話会があって、例えば心変わりして、やはり学区外通学制度で申請していた学校と違う学校に行くとなったら、それはまた市のほうに申請すれば変更可能なのか。

清水会長　それをさっき学務課に確認していて、どうかと言ったら、一斉には聞かないが、やっぱり心変わりしてといった場合には、学務課に一件一件電話をしてくれれば、ちゃんと個別に対応していきますという返事をもらっている。だから５月２０日に出したでしょうということで、パンと切られることはない。

委員　絶対にないということか。

清水会長　はい。だから、どんどんお子さんの背中を押してほしい。

新たな学校推進課　教員人事について、補足でご説明させていただく。教員人事については、東京都が最終的に決定するが、市教委としては、統合前の各校の教員を、新しい学校においてもバランスよく配置して欲しいとの旨の要望を東京都へ繰り返し行っている。

本町田地区で申し上げると、本東小と本小の先生を２５年度の統合校にはバランスよく配置してくださいという要望を行っている。また、本東小と本小の学校以外から来られる先生もやはりいらっしゃるので、そういったところも勘案して、バランスよく配置してほしいということを都教委には伝えている。

さらに、教員の数は、学級数に応じて基本の数が決まるが、今年度については、統合における教員人事の配慮というかたちで、教員の加配も実際に実現している。

清水会長　ちなみに、町三小が本町田ひなた小に来るときも、同じような感じで町三小の先生方というのも要望を出してもらえるということでいいか。

新たな学校推進課　指導課と話をしながら、東京都にどういった要望ができるかというのはきちんと考えていきたい。

清水会長　未来のひなた小の子どもたちのため、不安が少しでも減っていくということを、今のこの会議を有意義に活用していきたいと思う。なので、ぜひよろしくお願いしたい。

委員　本当に、私もおとといリアルに聞いた話だが、今、年長さんのお母さんから、１人

っ子のおうちについて。やっぱり情報源がなさ過ぎて、途中から新設の学校に入るということで、うちの子どもは逆に言ったら新設校に１年生で入るから、もう１年生になるんだよだけで済む子だが、そのお母さんは、どこに聞きに行かなきゃと、来年１年生になるので、まさにもう今から当たり前に考えている。そういう情報をもっと私たちが発信しなきゃいけないが、なかなかその場がないので、そこがちょっと難しくて、もっと本当は教えてあげたいが、何かそういう方法を、三小の人たちも結構不安に思っていることが多い。なので、新しい２校が統合した後に、もっとさらなる不安があると思う。

うちなんかは、学校は楽しいと、もちろん送り出すつもりでいるが、小学校を統合したら、今後、うちの上の子たちは中学校の学区変更に関わってくる。多分、今、この町田市に住んでいるお母さんたちはもっと電波を張り巡らせなきゃいけなくなるが、多分、ほとんどの方があまり周知できていないんじゃないかなと思う。

なので、小学校もそうだが、その後に中学校があるというのを前提にみんなに周知してあげないと、多分、ここの学校に行って、ここに行くからと計画を立てて家を買っている人もいるので、そこをもうちょっと上手に何か発信できる方法を考えていかなきゃいけないのかなと思う。

清水会長　発信について、そうやってそれぞれが口コミで発信するのもあるし、地域の行事で発信するのもあるし、あと、保護者会とか学校公開を活用して私みたいにやることもあるし、また、新たな学校推進課で周知のほうを考えていただく、そういうことはいろいろある。ここで出たものは公の場のものなので、私のさっき言った意見についても、それはもう広めて構わない。そうやって、推進協議会に出ると、こういうことを言っていたよというと、もしかしたらいろんな方の不安が集まってくるかもしれない。でも、そのときにまた保護者説明会のとき等にどんどん寄せていただければ、こういう実りある議論になると思う。

委員　私のうちに数か月前に新たな学校づくりの反対者からいろいろと書面が来た。その方とお話しして、彼らが言う新しい学校というのは、やはり地域の人たちの考えだったり、保護者だったり、そういう思いというのは非常に多いと。３校を合同にするというのは、反対者の意見というのは、やはり児童数が多くなればいじめだったり、そういった部分でも、送り出すには非常に厳しいなというところで、ある意味、どういうところで反対しているという話を自分のほうに言ってくるが、それは地域の者としてちゃんと受けとめながら、そういう方の意見も含めながら、やはり新たな学校づくりというのは、いろんなご意見を聞きながら進めていかなきゃいけないよというところを、切り捨てるのではなく、いいところはいいように持ってきてほしいなと。反対者のご意見を必ずしも切り捨てるのではなく、そこのいいところだったり、今後、こういう学校にしてほしいなというところも含めて取り入れてほしいなというのが私の意見。

やはり反対者のほうもよくよく話を聞くと、そういう思いは結構あるいろんな意

味を含めた反対だと思う、それを含めて、多分、反対の請願書が出ていると思う。そういった部分も、この場では何も話されないが、反対の意見というのはこういう部分でありますよという、やはり委員として少しそういう内容も含めた形で本当はお話ししてもらったほうがいいのかなというのが自分の中にあった。こういう新たな学校づくりというのはいいことずくめではないので、そういった意味では、今後ともそういった部分も含めて取り組んでほしいなというところ。

新たな学校推進課　ご指摘のとおり、本町田地区の新たな学校づくりに対して、市議会のほうでは請願がこれまでも複数回提出されている。本町田地区に限らず、今、南成瀬や鶴川地区でもこの取組を進めているが、やはり全ての地区でそういった状況になっている。

新たな学校づくりに関して、反対される方々のご意見は様々だが、特に、小規模校を残していいじゃないかという主張に関して、市教委としては、やはり子どもたちが協同的に学ぶため、また、人間関係をつくっていくに当たっては、学校の規模というのはある程度の規模にしたいというところは、繰り返し説明をさせていただいている。ここに関しては、市教委としての譲れない思い、確固たる方針があり、推進計画を策定した次第である。

これまで寄せられている新たな学校づくりへ反対という思いやご意見も、今後、こちらの協議会の中でも触れながら、それに対する市教委の考えや、どういった手立てが必要かというところは委員の皆さんと一緒に考えていけるといいのかなと思う。

（６）その他報告事項について

新たな学校推進課　最後に事務局から、本町田小学校の跡地の活用について口頭でご報告させていただく。

２０２１年５月に策定した推進計画において、町田第三中学校と山崎中学校の統合新設中学校の学校の建設候補地を木曽山崎公園、そして次点の候補地を山崎中学校として検討、調整を進めていた。その中で、木曽山崎公園に学校を建設する場合、公園代替地の確保が必要になり、この確保が困難であるということが判明したため、次点の山崎中学校で検討を行いましたが、通学距離や通学時間に課題があった。そのため、推進計画策定時に除外していた本町田小学校用地を候補地に含め、改めて児童生徒の通学のしやすさと、ゆとりある学校施設環境の整備という２つの評価項目に沿って検討を行った。

その結果を踏まえ、本町田小学校用地を新たな候補地として選定し、５月の教育委員会定例会で正式に決定をした。今後、「まちだの教育」や「まちだの新たな学校づくり通信」で周知するとともに、地域の団体である町内会や自治会、青少年健全育成地区委員会、民生委員児童委員協議会へ個別の説明も行っていく。